

# 一 姫路のあけぼの

## (一) 太古の姫路

最初の人類　人類の歴史は二百万年、あるいは四百万年ともいわれていま  
す。地球の上に現れた最初の人類は、二本足で立って歩くようになっており、  
猿さるによく似ていました。それで、直立猿人ちよくりつえんじんなどと呼ばれていま  
す。その子孫は、長い年月の間に少しずつ進化をとげ、今から数十万年前に、「知恵ホモ・サピエンスのある人」  
となりました。これが現在の人類です。

文字がまだ使われていなかった古い時代のことは、その時代の人々が使った  
道具や食べ物、化石などの遺物いぶつを手がかりにして調べます。このような学問を  
考古学こうこくといいます。この研究によると、わたしたちの郷土きょうど、姫路地方では二万

一万年前ごろから人間が住んでいたようです。

瀬戸内は陸続き

そのころは氷河時代と呼ばれて、地球は広く氷河におお

われていました。氷の厚さは、百メートル以上もあったといわれています。それで世界の海の水は少なくなり、海水面は現在よりも百三十一百四十メートルほど低くなっていたらしいのです。

このため、日本はアジア大陸と陸続きになっていました。もちろん、瀬戸内海もなく、姫路は家島・淡路島・四国などと陸続きでした。市川や夢前川・揖保川などは、現在の播磨灘あたりで合流し、鳴門海峡をぬけて紀伊水道のところから太平洋に注いでいたようです。手柄山や家島群島は、広い野原の中にある小山でした。気候が寒冷であったので、あたりにはコマツガ・トウヒ・シラビソなど、現在は北海道に多く見られる樹木が茂っており、背の高さが三メートルもあるナウマン象や大きな角をもったオオツノシカなどが住んでいました。

人々はこんな土地に住み、草木の実や若芽を集め、狩りをして暮らしていたのです。

### 手柄の打製石器

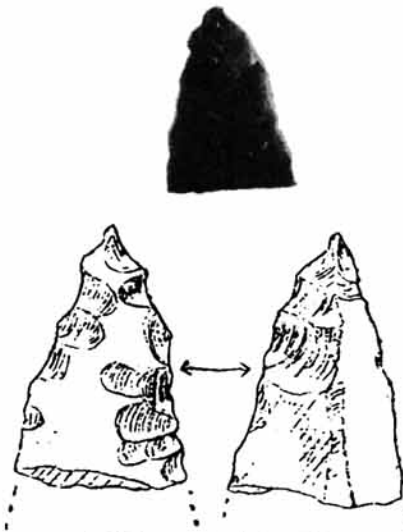
写真の石器は、一九五七年（昭和三二年）に手柄山の北

側の丘で発見されたものです。青味がかかった黒色で、ガラスのようなつやのある黒耀石で作られた、小型の切り出しナイフのような石器です。打ちかいた

けで作られているので、打製石器といえます。

このような打製石器は、家島群島でも発見されています。それらは、サヌカイトというかたい石で作られています。

手柄の石器の黒耀石は、近畿地方に



黒耀石の打製石器

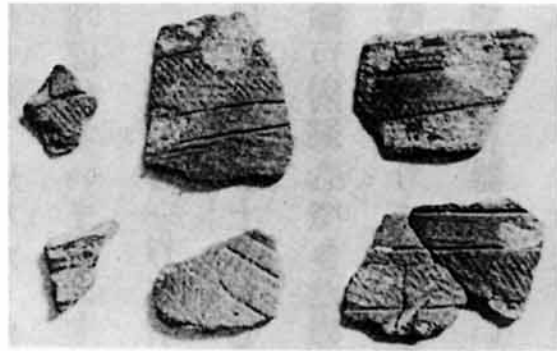
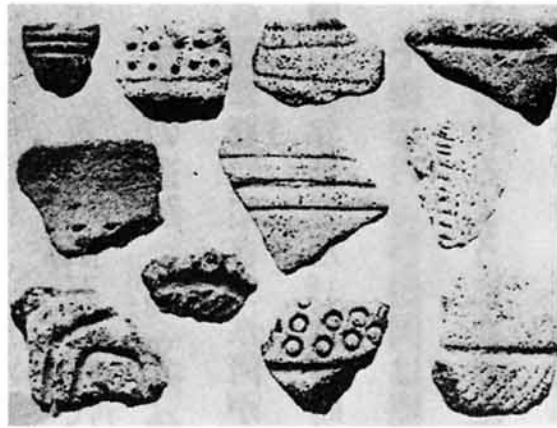
(手柄山出土 長さ2.7 cm 幅1.5 cm)

はその産地がないので、九州の佐賀県腰岳さかがこしだけ、または大分県国東半島沖おおいたくにさきの姫島おきのものだろうといわれています。一万年以上もむかしの人々が、こんなに遠い地方とつながりをもっていたらしいのです。この黒耀石の石器は、当時たいへん貴重きちような品物だったと思われまます。

この時代は、土器がまだ作られていなかったので、先土器時代とか無土器時代、あるいは旧石器時代と呼ばれています。

辻井の遺跡つじい（縄文時代いせき）　今から一万年―七千年ほど前になると、気候が温暖おんだんになってきて氷河がとけ、海面が上昇じようしようしてきて、わが国は海で囲かこまれた島国になりました。この時に瀬戸内海もできたのです。

そのころ、わが国は縄文時代に入りました。縄目なわめの模様もようをつけた縄文式土器が作られるようになったのです。石器もみがいて仕上げる磨製ませい石器が作られ始めました。



### 縄文式土器

(上, 辻井遺跡出土 下, 橋詰遺跡出土)

縄文式土器の模様には、縄目の模様のほかに、竹べらで線を引いたもの、竹の切り口をお押しつけたもの、縄文の一部をすり消したものの、そのほか多くの模様がありました。

姫路の縄文遺跡の代表は、辻井遺跡です。それは、辻井の南方で名古山のすぐ北西にあります。一九四〇年（昭和十五年）に発見され、地表下二十一―三十センチメートルの黒土の中から縄文時代中期のものを中心に、それ以後の各時代の縄文式土器が出土しました。また、矢じり・きり・小刀・おもり・おの

などの石器も掘り出されています。

姫路の縄文遺跡には、辻井遺跡のほかに、飾磨区亀山の石ヶ坪遺跡、揖保川下流の網干区の坂出遺跡、手柄山の東、山陽中学校のところの橋詰遺跡などがあります。

これらの遺跡から出土した縄文式土器は、岡山など山陽地方の系統のものと、奈良や神戸など近畿地方の系統のものに分類することができます。姫路の縄文文化は山陽地方や近畿地方の文化を受け



人骨出土のようす（辻井遺跡）

入れて発達していたようです。

辻井遺跡からは、人骨も出土しました。三十一―三十五才の男子のもので、身長は、約百五十八センチメートルでした。この人骨は、仰臥屈葬ぎようがくつそうといって、あお向けに寝かせ、足を折り曲げて葬られていました。こうしておけば、死んだ人は、もう悪霊あくりようになって出てくることはないから安心だ、と考えられていたようです。

姫路では、はっきりした貝塚かいづかは発見されていませんが、高砂市曾根たかさごそねの日笠山ひがさには縄文時代の貝塚があります。日笠山貝塚からは、ハマグリ・マガキ・ハイガイなどの貝殻かいがらに混じって、イノシシやシカなどの獣けだものの骨、クロダイ・マダイなどの魚の骨などが出土しました。

このような貝塚の遺物からみると、縄文時代の人々は、海で貝や魚をとり、野山で狩りをし、また草の芽や根をとって、食物を得ていたようです。どんぐ

りの実などは重要な食物で、水にひたしてしぶぬきをして食べたようです。縄文式土器は、おもにこれらの食物を入れたり、煮たきしたりする器として用いられたのでした。

全国的にみると、縄文時代の遺跡は、丘の上など小高いところにある場合が多いのですが、姫路では、現在、海拔十メートルかいばつたらずという低地に分布しています。また、辻井遺跡や橋詰遺跡では、つぎの弥生時代やよいやその後の時代の遺跡が重なって発見されています。このことは、わたしたちの祖先が同じ場所に長く住みついていたということを物語っています。